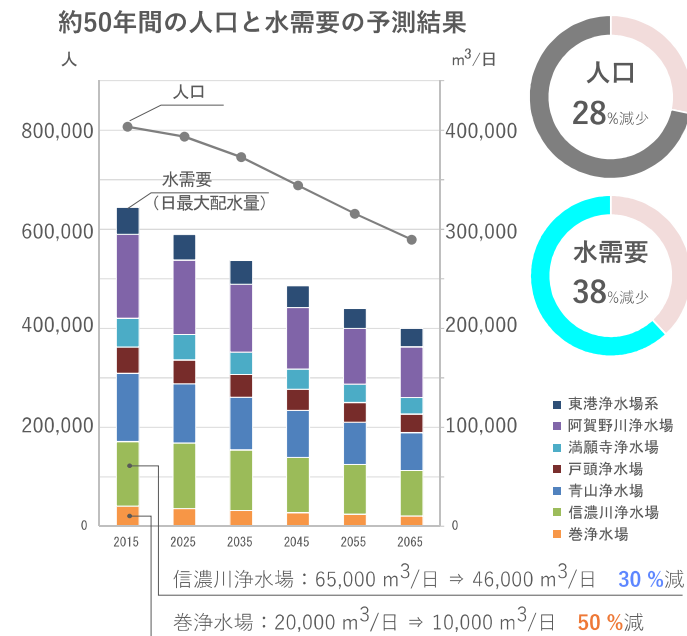


■ 新潟市水道施設整備長期構想2020 要約版 1/2

■ 背景 ～人口減少により水需要は減少する～

■ 新潟市の水道事業の現状



人口と水需要は既に減少傾向

- ・人口の減少は加速度的に進む。
- ・約50年間で水需要は122,000m³/日（約38%）減少する見通しである。
- ・水需要の減少傾向には地域差がある。

給水収益の減少と施設効率の低下

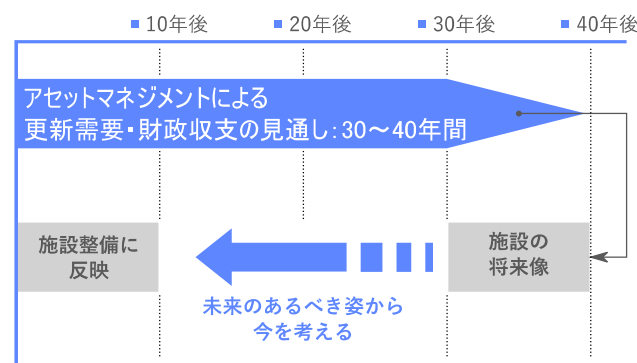
- ・水需要減少に伴い給水収益は減少し、経営環境は悪化する。
- ・施設建設時に比べて水需要は減少していくため、施設効率は低下する。

水道施設の老朽化

- ・水道施設の多くが1970年代から1980年代に集中的に建設されてきたため、順次更新時期を迎えている。

■ 施設計画に求められること ～将来の水需要へのマッチング～

長期的な視点での施設整備のイメージ



長期的な視点での計画

- ・限られた財源を有効活用していくためには、長期的な視点で効率的に水道施設を管理運営するアセットマネジメント（資産管理）の考え方が必要である。

施設能力の適正化

- ・水需要の減少が今後も続くことが想定され、施設能力と水需要の乖離による施設効率の低下が懸念される。
- ・水需要の動向を注視し、設備更新に併せて施設能力を減少させる必要がある。

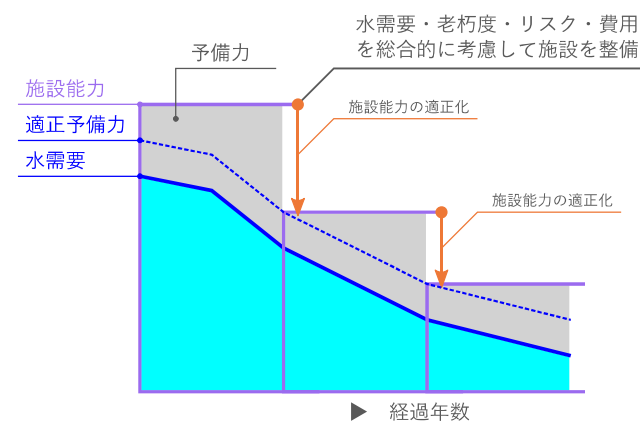
計画的な施設更新

- ・安全・安心な水の安定供給のためには、老朽化した施設を計画的に更新し、水道施設の健全性・信頼性を維持していく必要がある。

災害対策

- ・日本各地で地震や豪雨による災害が発生しており、水道施設も甚大な被害を受け、広域的・長期的な断水が発生している。
- ・安定給水を確保するために、水道施設の災害対策を進めていく必要がある。

施設能力の適正化のイメージ



■ 目的 ～将来にわたり安全・安心な水の安定供給を持続させる～

■ 施設能力の適正化・計画的な施設更新・災害対策を的確に進めないと…

- ・減少する水需要に対し、過剰な施設規模となり、必要以上の維持管理・投資が生じる。
- ・施設事故や災害被害のリスクが高まり、給水サービスの低下を招くおそれがある。
- ・課題の先送りは、将来世代の負担の増加につながる。

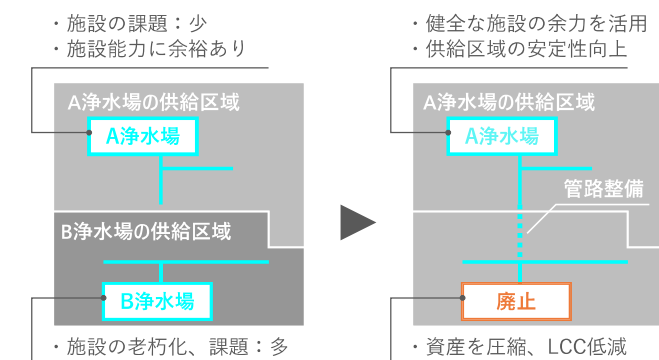
■ 本構想が目指すものは…

- ・水需要減少や施設の老朽化を踏まえた施設再編により、水道システムの様々な課題に効率的に対応するとともに、水道施設機能の維持・向上を図る。
- ・施設再編の『羅針盤』として、水道施設の将来像と整備・更新の過程を示し、合理的な施設整備を進める。
- ・合理的な施設整備（施設能力の適正化・計画的な施設更新・災害対策）により、将来世代の負担の増加を抑制し、健全な事業運営を目指す。

■ 施設再編の基本方針 ～投資の最適化を目指し施設を再編する～

■ 水需要減少を考慮した施設再編

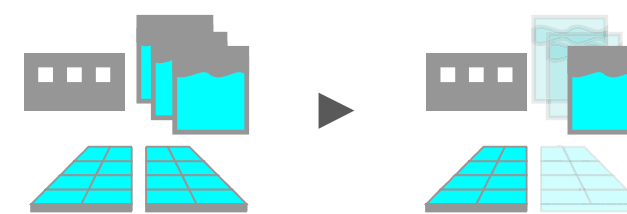
施設統廃合のイメージ



- ・水需要の減少傾向の地域差や施設の課題などを勘案して水道施設を再編する。
- ・水需要の減少によって生じる既存施設の予備力を有効活用し、施設統廃合を進める。
- ・将来像を見据えて、各水道施設への投資を最適化する。

▶ 水道施設を計画的・効率的に整備

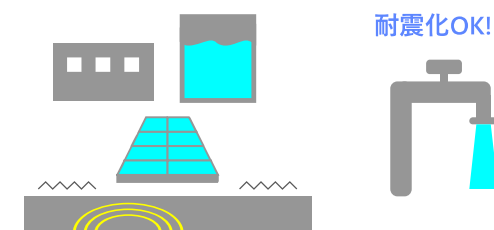
■ 資産圧縮と経費削減



- ・浄水場、配水場ともに、水需要の減少や施設の老朽度に応じて施設数を削減することにより、管理する資産を圧縮する。
- ・浄配水施設を統廃合することにより施設整備費および維持管理費を削減する。

▶ 無駄のないコンパクトな水道を構築

■ 水道施設の合理的なリスク対策



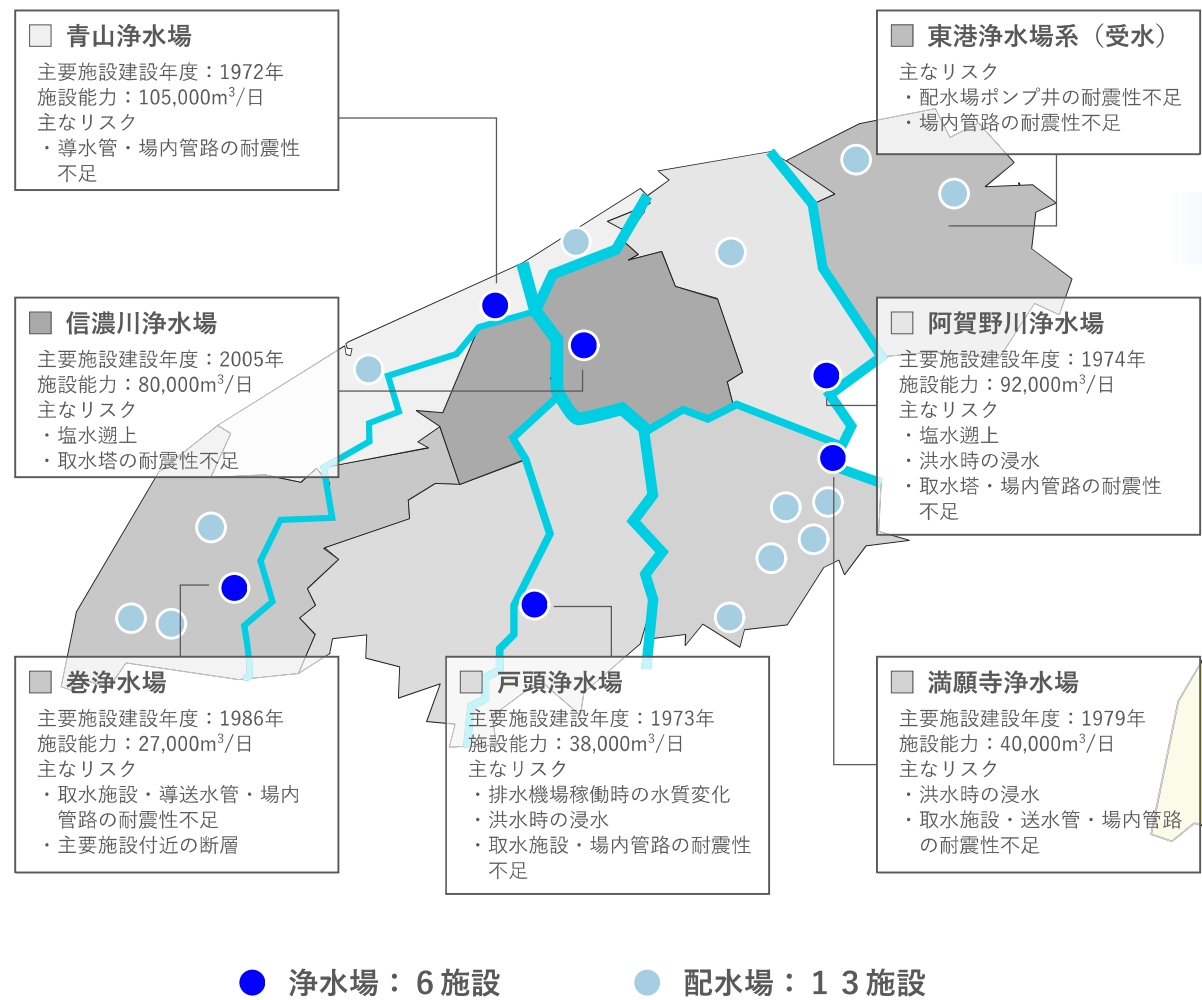
- ・水道施設の各種リスクを評価し、優先度を検討することでリスク対策を効果的に進める。
- ・施設再編により、投資を集中して耐震化や浸水対策を進めることで、水道施設の保有リスクを合理的に低減する。

▶ 自然災害に強い水道施設に整備

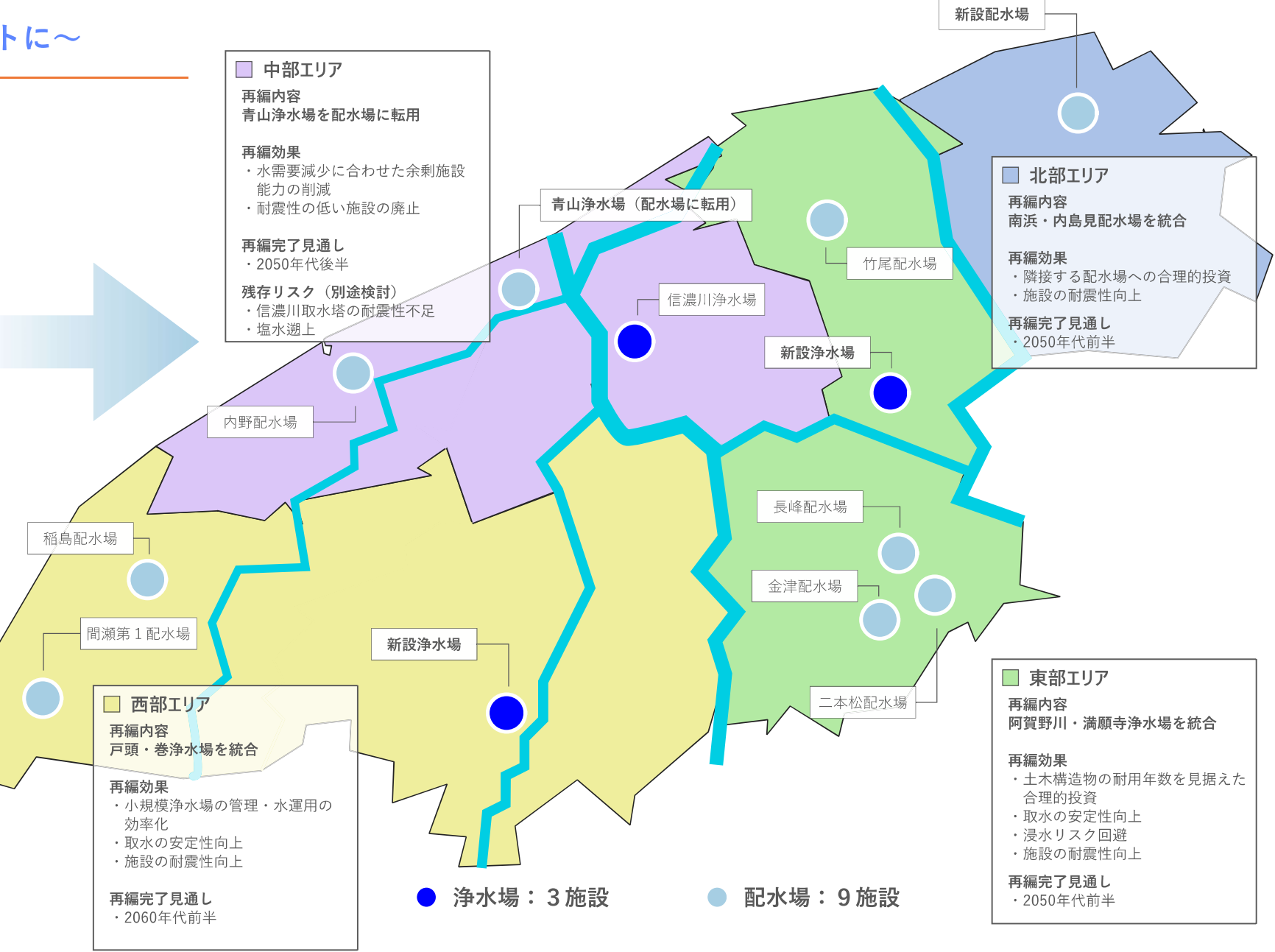
■ 新潟市水道施設整備長期構想2020 要約版 2/2

■ 水道施設の再編 ～4つのエリアに集約：高効率かつコンパクトに～

現在の浄配水施設の配置状況

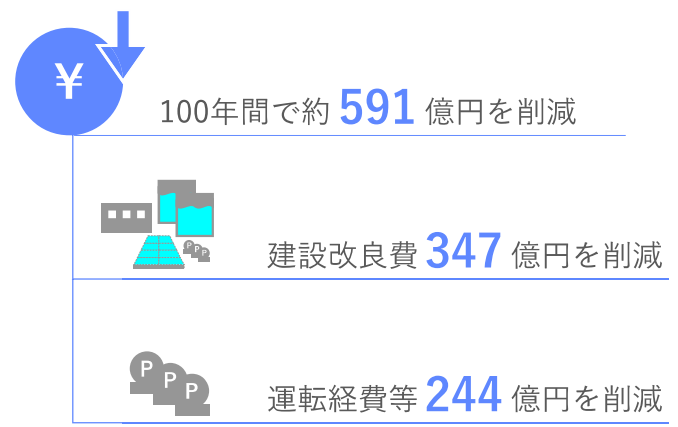


再編後の浄配水施設の配置状況



■ 施設再編による効果

施設再編による費用の削減効果

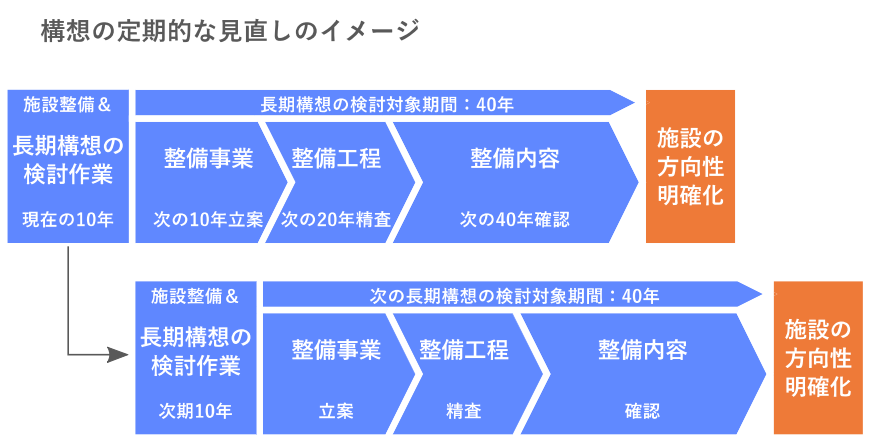


- 将来像を見据えて、施設を統廃合することで、投資の最適化、施設能力の適正化、施設の健全性・強靱性の確保を進める。
- 施設更新などの建設改良費の削減だけでなく、運転経費の削減も期待できる。

※試算結果について
 ・構想策定時の今後100年間の概算（物価変動無し）
 ・現有施設存続と施設再編実施におけるLCCの比較

■ 長期構想の位置付けと定期的な見直し

長期構想は"新潟水道を理想の水道システムに導く羅針盤"



- 長期構想に示す方向性に沿って、取り組むべき整備内容を具体化していくことで、効率的かつ効果的な施設整備を実現していく。
- 定期的な見直しにより、社会情勢や環境の変化に柔軟に対応する。
- 常に40年先を見据え、長期的な視点で施設計画を推進していく。

